

令和5年度 府立桃山高等学校(全) 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。 ○SSH3期目の指定のもと、SSHを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図り、資質・能力「5C」(*)を身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成を目指す。 ○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。 ○新学習指導要領を踏まえた教育活動を推進する。 *5C 本校では、グローバル化とサイエンスの発展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の5項目として育成を目指している。 ①Critical thinking and problem solving (批判的思考力と問題解決) ②Creativity and innovation (想像力と革新) ③Collaboration (協働力) ④Communication (コミュニケーション力) ⑤Challenge (挑戦力)	(1) 「自主自律」ワンランク上の「文武両道」など、本校の特色や教育理念、またSSH3期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き、学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。今後は、入学してきた桃山高校生・保護者の期待に応えるべく、これまでの成果の上に立った、さらなる高みを目指した教育活動を展開するとともに、さらなる学校の魅力発信に努めたい。 (2) SSH事業において、普通科・自然科学科ともにGS探究の充実が図られるなど、探究的な学びが進み、その成果が着実に次世代で活躍する人材としての資質・能力の育成につなげることができている。今後は第4期SSH指定獲得に向け、探究的な学びを学校の文化として定着させていきたい。 (3) 組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、進路実現に向けて、学校全体で最後まであきらめない指導を行えた。結果、国公立大学や私立の大学に、多くの生徒が現役合格でき、難関大学へも積極的にチャレンジしてくれた。今後は、生徒の学びの志向性にさまざまな刺激を与え、より高みを目指す進路目標にも積極的にチャレンジできるような組織体制を確立するとともに、生徒の意欲に火をつけ「主体的学習者」の育成につながるキャリア教育を継続していきたい。 (4) 新学習指導要領や新しい大学入試制度に対応するため、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、記述力や英語の4技能の向上に向けた取組など、組織的に計画的に取組を推進することができた。今後は生徒の多様性に目を向け、ICTを活用しながら「個別最適化した学び」や「協働的な学び」を推進していきたい。 (5) コンプライアンス意識の低下による問題事象が発生したことを受け、さらに意識を高める取組を進めていきたい。	(1) 「主体的学習者」の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、学びにおけるICTの利活用、生徒の多様性に目を向けた「個別最適化」した学習指導や「協働的な学び」について研究・実践を進め、桃山高校の学びのデザイン再構築を行う。 (2) より高みを目指す進路目標にも主体的・積極的にチャレンジできるような組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を継続して展開する。 (3) SSH3期4年目である今年度も、「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を、教育活動全体に落とし込み、4期目指定獲得に向けて全校体制で実践していく。 (4) 生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。 (5) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、桃山高校働き方改革を進めるとともに、高いコンプライアンス意識をもった教職員集団を形成できるよう努め、生徒にとっても教職員にとっても魅力ある学校を作る。 (6) 学校外部の施設や人材をより一層活用することで、教育活動のさらなる充実と教職員の負担軽減に繋げる。

領 域 価	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価		成果と課題
教 務 部	「主体的学習者」の育成のための教育活動 や授業改善の取り組みを支援する。	昨年度より導入されたひとり一台端末について、教育活動をより効果的に行うための 教科指導や端末活用の工夫を教科を超えて共有するための取り組みを引き続き行う。			
		観点別評価と評価のつけ方について、教科主任会議等を通じて共有し問題提起や提 案を行う。			
生 徒 指 導 部	生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を 創り上げることができるような「学校行事」の 検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによ って実現する「高いレベルの文武両道」へ の仕掛け作りを行っていく。	生涯にわたってスポーツを楽しめる能力や態度を培う。 生徒会を中心に、生徒全員の創意工夫を生かした自主的な取り組みを行い本校のよ き伝統を継承する。			
		生徒一人一人の自主性を養い、HR・部活動・生徒会の活動を充実させ、自主的集団 として成長することを目的とする。			
		部活動への積極的参加を促し、加入率の向上と活動実績の広報活動を行う。			
進 路 指 導 部	より高みを目指す進路目標にも主体的・積 極的にチャレンジできるような進路指導を展 開する。	難関大学進学希望者に対してハイレベル模試を積極的に受験する働きかけを行うとと もに、模試結果から浮かび上がる学習課題克服に向けて次取るべき具体的アクション を伝える事後指導の機会を設ける。			
		学校外部の人材や卒業生を活用し、難関大学志望者対象の進路講演会やオンライン 座談会を実施するなど難関大学受験に対するモチベーションを維持・向上させる。			
教 育 企 画 推 進 部	「主体的学習者」の育成に向けて、「個別最 適化」した学習指導等を実践するために、IC T環境を整備し、利活用を図る。	ICT機器の整備を進める。教職員向けの研修会を実施したり、ICTの活用方法をこま めに共有することで、学校全体のICTリテラシーを向上させる。			
	本校を第1志望として選択してもらうよう、広 報活動をより充実したものにする。	説明会や学校案内の内容などの見直しを行い、より本校の魅力を伝えることができる よう改善する。ホームページ、公式YouTubeチャンネルを充実させる。			
	「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会 を創造し牽引するグローバルサイエンス人材 の育成」という目標を教育活動全体に落とし 込み、SSH3期4年目の事業を全校体制で 実施する。	SSH3期申請内容に基づいて令和5年度事業計画の取組を実施し、効果検証と成果 普及を行う。 また、SSH第4期の申請を見据え、職員会議での報告や探究通信の作成等により教職 員全体へのSSH事業の周知を行うことで、全校体制でのSSH事業推進をさらに進め ていく。			

領 域 価	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価		成果と課題
保 健 部	特別支援教育を含む生徒の多様性に適応できる学校環境の整備	学校不適応を含め心身共に課題を抱える生徒の学校生活への適応を支援する。			
		特別支援教育の個別支援を要する生徒について、必要に応じて適応対策会議の場で状況等を共有する。			
		学習環境のユニバーサルデザイン化を進める。			
図 書 部	「5C」を身に付けた人材の育成、「主体的学習者」の育成に必要な桃山高校の「学び」を探究する。	図書委員による自主的、積極的な図書館運営(班活動、読書月間における各種行事の立案と実践など)を行う。			
		課題研究をはじめとする各授業での図書館の活用や、教職員の図書推薦などの様々な仕掛けを試みる。			
		「5C」に関する図書を充実させるとともに生徒に向けて紹介する。			
第 1 学 年 部	桃山高校での生活を通して、主体的、自律的に行動できる生徒を育てる。	ホームルームや面談などを通じて、個々の生徒の特性を把握し、個別最適化した、学習指導、生活指導を継続的に行うことを目指す。			
		手帳やポートフォリオを活用し、具体的な学習計画や行動計画を立てさせるとともに、常に振り返りをさせ記録を残すことを習慣化させることで、次の行動へとつなげていくことを目指す。			
第 2 学 年 部	生徒それぞれが自分の良さや個性に気づき、資質、能力を自らの力で伸ばすことができるよう、何事にも全力を尽くし、最後まで諦めずにやり抜く力を育む。	ホームルームや個人面談など、あらゆる教育活動の場面で、生徒集団や個々の生徒とのコミュニケーションを継続的に図り、学習や部活動、学校行事等に対し、主体的、意欲的な態度で取り組むことができるよう指導する。			
第 3 学 年 部	人とのつながりを大切にし、協働して取り組むことで共に成長し合える集団を作る。生徒の学習意欲に火をつけ、最後まで粘り強く学び続ける集団づくりを行う。	各担任は生徒たち1人ひとりの気持ちに寄り添い、主体的学習者である生徒たちの成長を促す。学級や個々の生徒の状況を日常的に交流・共有し、複数の教員が多角的に生徒と関わる。			
		GS探究Ⅲ、LHR、学年集会、学校行事、学年通信等を連動させ、個々の生徒の見方・考え方を学年全体で共有し、学年/学級集団への帰属意識を高める。価値観の多様性に気づききっかけを作ることで、学年/学級集団がさらに成長するための機会とする。			
		生徒たちの進路実現に向けて、進路指導部や教科担当者との連携を密にして、主体的に進路選択ができるような指導を充実させる。特に生徒たち自身が自らの成長を期待して粘り強く学び続けられるように学習行動を促す。			
事 務 部	分掌、教科と連携し、予算を効果的に運用するとともに、行政的な視点から教育活動を積極的に推進する。	生徒、教職員の安心・安全に向けた施設・設備の整備・充実を図る。			
		ICTを活用した学校運営、教育活動の推進、長寿命化改修工事の円滑な調整、教科指導や学校行事等の充実を図る。			

領域評価	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語	国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成する。	「主体的学習者」の育成を目指して、「個別最適化した学び」や「協働的な学び」についての研究や実践を進め、ICT教材を活用した授業スタイルを模索する。			
		新学習指導要領や新しい共通テストについて研究を進め、生徒の国語力育成に還元すべく、教科内で情報を共有する。			
公地民歴	興味・関心と学習意欲を高め、自ら学ぶ力、考える力を育成する。	板書、プリントを充実させ、資料（写真、統計、史料等）や視聴覚教材を有効に活用する。			
		ICTを利活用した授業や「協働的な学び」を意識した授業を研究・実践し、「主体的・対話的で深い学び」による思考力・表現力等の育成を図る授業改善に取り組む。			
数学	学習意欲の向上を基盤にした主体的学習者の育成を目指し、探究活動との連携を図り論理的思考力の獲得を通して、実践問題に積極的に取り組む態度を養成する。	小テスト、定期考査、模擬試験の到達度目標を早期に提示することで、学習計画の作成を習慣化させる（手帳およびチェックシートの活用）。目標へ向けた取り組みの過程においては、個々の生徒の学習方法等を生かすように工夫する（個別最適化）。また、習熟度の高い生徒向けには数学検定を中心として、数学オリンピックや数学コンテストへの参加を促し、授業とは異なる観点で数学に触れる機会を増やす。			
		深い学びにつながる発問の仕方や視覚的教材の利活用を今年度も継続して検討する。また、提出されたレポートや記述形式の添削課題を、ICTを利用することによって生徒間での共有を図り、探究活動を通して学びを深め、数学的、論理的思考力を洗練させる。			
		新学習指導要領実施2年目を踏まえ、指導計画や評価（従来の評価と観点別評価）の整合性について昨年度の実施を基に改善点など教科内で検討し確立する。			
理科	基礎的な知識・技能を習得し、見通しを持って主体的に学習に取り組み、日常生活を科学する学習者を育む。	思考力・判断力・表現力を育めるような実験・実習を行う。			
		観点別評価法をさらに研究し、「指導と評価の一体化」の観点から、授業改善を行う。			
		教材や授業を教科内外へ公開し、共有する。			
保健体育	体育・保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	具体的な知識と汎用的な知識とを関連させて理解できるようにするとともに、科学的知識を基に技能を身に付けることでその理解を一層深める等、知識と技能を関連させて指導する。また、1・2年生の授業においては、技能の向上に向け、ICTの有効活用を積極的におこなっていく。			
		自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的に解決することや、新たな課題の発見につなげたりすることができるよう知識を活用や応用により、思考・判断したことを、根拠を示したり他人に配慮しながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及びICT機器等を利活用して筋道を立てて伝えることができるよう指導する。			
		愛好的態度及び健康・安全、公正、協力、責任、参画、共生について、汎用的な知識を関連させて指導することで、主体性を促し、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力を育成する。			

領 域 評 価	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価		成 果 と 課 題
芸 術	音楽：学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。	主体的に音楽に関わり、感受する力を育成するため、表現、鑑賞のそれぞれの学習内容について、批評活動を積極的に取り入れる。			
	美術：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的に学習する生徒の育成に向けた授業となるように努める。	作品の校内展示や学校の諸活動と連携した取り組みを進め、美術やデザインと社会の関係性について考えたり、客観的な視点で自分の表現を見つめさせる授業にする。			
	書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、主体的な学習者の育成に向けた授業展開を行う。	基礎・基本を身につけ、「表現」、「鑑賞」の学習内容に、批評活動を積極的に取り入れた授業展開を行う。			
英 語	英語学習における「主体的学習者」を育成する。	授業、家庭学習を通して、主体的に英語力向上に取り組めるよう、ICTを効果的に活用するとともに、1年間の学習計画と効果的な学習方法を明確に示す。			
		教員による解説を簡潔にし、ペア・グループワーク、パフォーマンステスト等を通し、生徒の英語の発話量・読解量・活動量を増やす。			
		パフォーマンス課題をさらに推進し、自己表現や学習成果のアウトプットの場として生徒が主体的に取り組む、英語を使う楽しさを感じられるようなパフォーマンス課題の仕組みをつくっていく。			
家 庭	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を総合的に習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	講義や実習・実験を通して，家族の健康と衣食住についての知識を身につけさせ，実践する力を育てるように指導する。清潔に衣服を管理し、時には取れたボタンをつけ補修する程度の力を育てるため、被服製作実習を取り入れる。			
		消費生活について，経済のしくみを理解し，生活を管理できるように指導し，ロールプレイなどを行い，消費行動が環境問題に関わることの理解を深める。18歳成年年齢となり、消費トラブルに巻き込まれないように、動画やICTを利用しながら巻き込まれた時の対処方法なども身に付けさせる。			
		乳幼児と高齢者の生活や福祉についても，ライフステージごとの心身の変化を「シニア体験」「マタニティー体験」実習により理解を深める。			
情 報	新学習指導要領の確実な実施と、ICTの効果的な活用をめざして教科としての役割を果たす。情報教育を通して学びの自己調整能力を養い、生徒の実践的な情報活用能力を育てる。	一人一台端末と校内のコンピュータを連携させて学ぶように設計した実習を取り入れる。			
		パフォーマンス課題実施し、観点別評価にも活用する。その際、生徒一人ひとりの主体的テーマ設定が可能になるよう工夫する。			
グ ラ フ イ ン フ ォ ー メ ー シ ョ ン	探究的な学びを通して、予測不能な時代を生き抜くために必要な資質・能力「5C」の育成を図る。また、SSH四期目取得に向け、様々な実践を学校内外に発信し、探究的な学びを学校文化として定着させる。	GS探究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して、3年間の探究的な学びのストーリーを生徒、教員、保護者が実感できるように、探究通信等を用いて情報発信する。また、複数の教科担当者がスムーズに実践できるよう、GS科目の位置づけや教科担当者の役割を明確にし、情報を整理して引き継ぐ。			
		GS探究Ⅲにおいて、これまでの探究活動の成果を生徒が実感できるような授業実践およびカリキュラム開発を行う。			
		授業内容および評価の方法を改善しながら、SSH4期目における探究学習の在り方（目指す生徒像や具体的実践内容等）について、校内で意見交換会を設定するなどして検討を進める。			